

令和6年度「食品ロスダイアリーキャンペーン」実施報告書

堺市環境事業部資源循環推進課

1 実施概要

(1) 目的

食品ロスの削減に向け、各家庭で発生した廃棄食品の種類や量等を一定期間毎日記録することでロスにつながりやすい行動の自覚を促し、ごみ減量の工夫や削減につなげることを目的とし、「食品ロスダイアリーキャンペーン」を実施した。

(2) 期間

申込期間：令和6年9月3日から9月30日まで

実施期間：令和6年10月6日から11月2日まで

アンケート回答期限：令和6年11月11日

定着アンケート回答期限：令和7年1月20日

(3) 対象

市内在住者（1世帯につき1人のみの申込みに限る）

(4) 申込状況

申込件数：103件（うち1件は重複申請のため却下）

実施件数（アンケート回答件数）：50件（うち1件は不備のため却下）

定着アンケート回答件数：46件

(5) キャンペーン内容

1. 家庭での食品ロス状況を食品ロスダイアリーに4週間記録
2. アンケートに回答、食品ロスダイアリーの実施結果の提出
3. アンケート回答者は2か月後に定着アンケートに回答
4. 定着アンケート回答者の中から抽選で20人にプレゼント

(6) ダイアリー実施方法（【参考資料】食品ロスダイアリー）

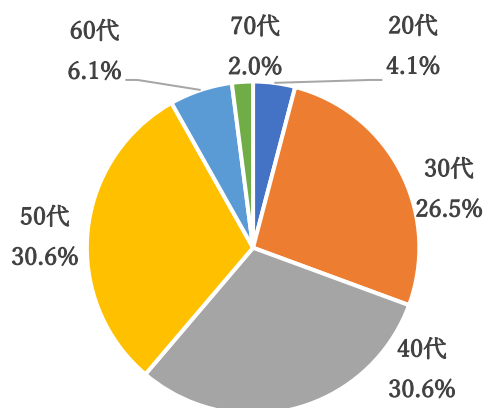
家庭内で、食べ残したものの、未使用のまま捨てたものを指定のダイアリーに4週間記録する。ダイアリーには日付、捨てたもの、捨てたものの量、捨てたものの種類、捨てた理由、参加者が考える捨てずに済む方法等を記入する。

2 実施結果

(1) 参加者属性

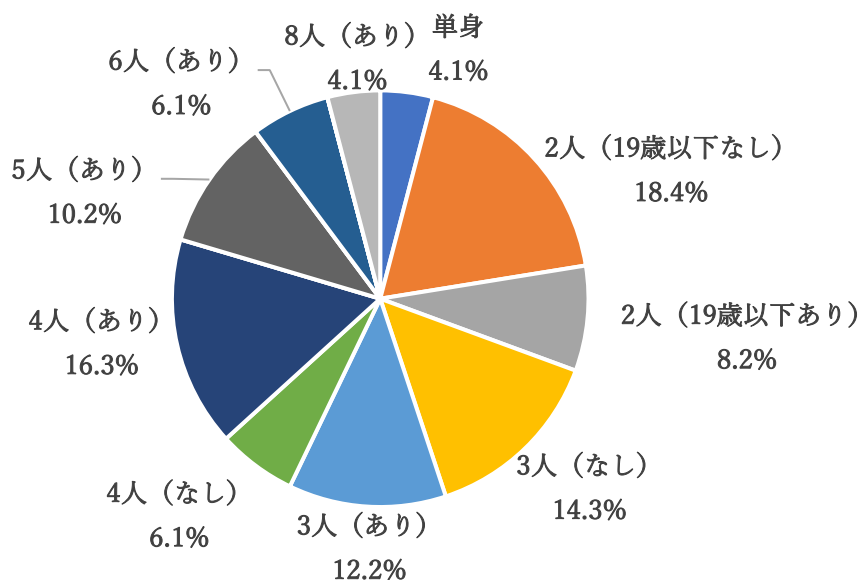
ア 年代

40、50代がそれぞれ30.6%（15人）と最も多く、30代26.5%（13人）、60代6.1%（3人）、20代4.1%（2人）、70代2.0%（1人）であった。30～50代の参加者が全体の87%以上を占めている。



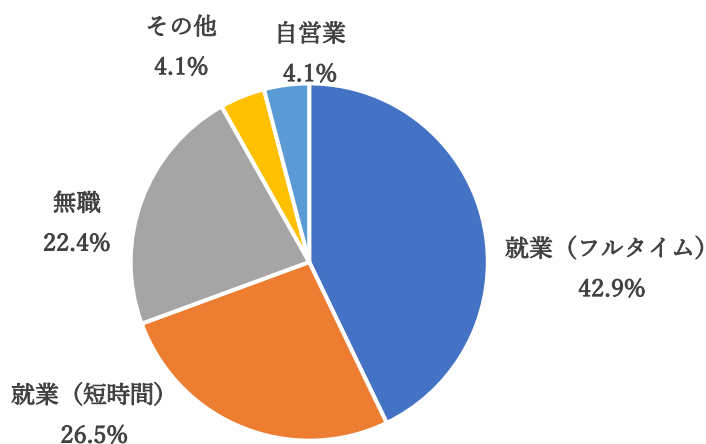
イ 世帯構成

2人世帯（19歳以下の同居人なし）が最も多く18.4%（9人）であった。4人世帯（19歳以下の同居人あり）が16.3%（8人）、3人世帯（19歳以下の同居人なし）が14.3%（7人）、3人世帯（19歳以下の同居人あり）が12.2%（6人）、5人世帯（19歳以下の同居人あり）が10.2%（5人）、2人世帯（19歳以下の同居人あり）が8.2%（4人）、4人世帯（19歳以下の同居人なし）、6人世帯（19歳以下の同居人あり）がそれぞれ6.1%（3人）、単身世帯、8人世帯（19歳以下の同居人あり）がそれぞれ4.1%（2人）であった。



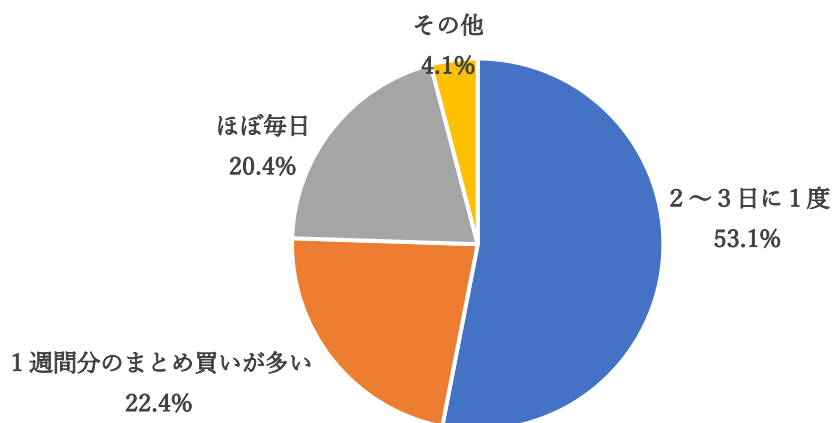
ウ 就労状況

就業（フルタイム）が 42.9%（21 人）と最も多く、就業（短時間）が 26.5%（13 人）、無職が 22.4%（11 人）、自営業、その他（育児休業取得中）がそれぞれ 4.1%（2 人）であった。



エ 買物頻度

2～3 日に 1 度が 53.1%（26 人）と最も多く全体の半分以上を占め、1 週間分のまとめ買いが多いが 22.4%（11 人）、ほぼ毎日が 20.4%（10 人）、その他が 4.1%（2 人）であった。



オ 参加のきっかけ

広報さかいが 51.0%（25 人）と最も多く全体の半分以上を占め、市ホームページが 14.3%（7 人）、園や学校からのお知らせが 10.2%（5 人）であった。それ以外については以下の表のとおり。

広報さかい	51.0%	さかい子育て応援アプリ通知	4.1%
堺市ホームページ	14.3%	スーパー等に掲示のあった募集ポスター	2.0%
園や学校からのお知らせ	10.2%	ムーやん公式 X（旧ツイッター）	2.0%
ごみ分別アプリ「さんあ〜る」通知	8.2%	知人からの誘い	2.0%
ごみ減量化推進員宛の案内	4.1%	その他	2.0%

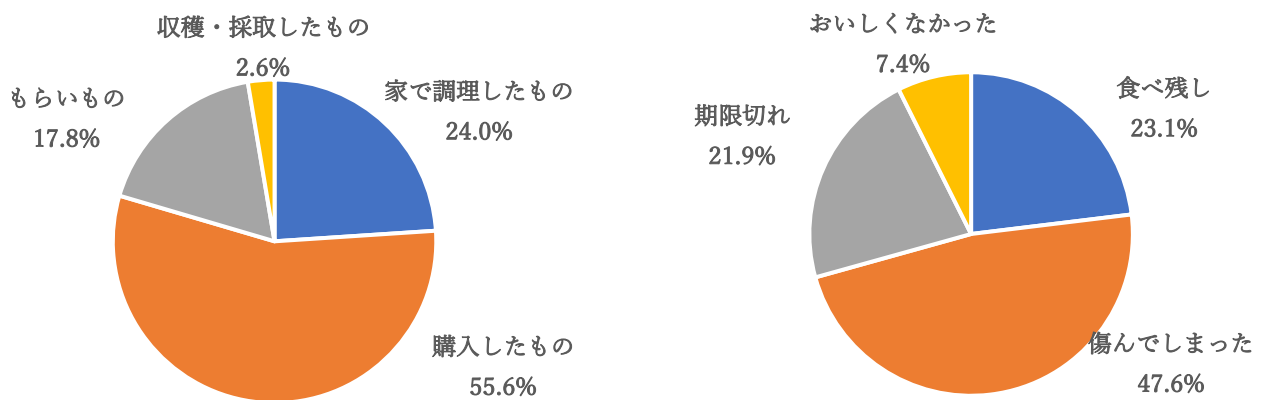
(2) ダイアリー集計結果

ア 食品ロス総重量

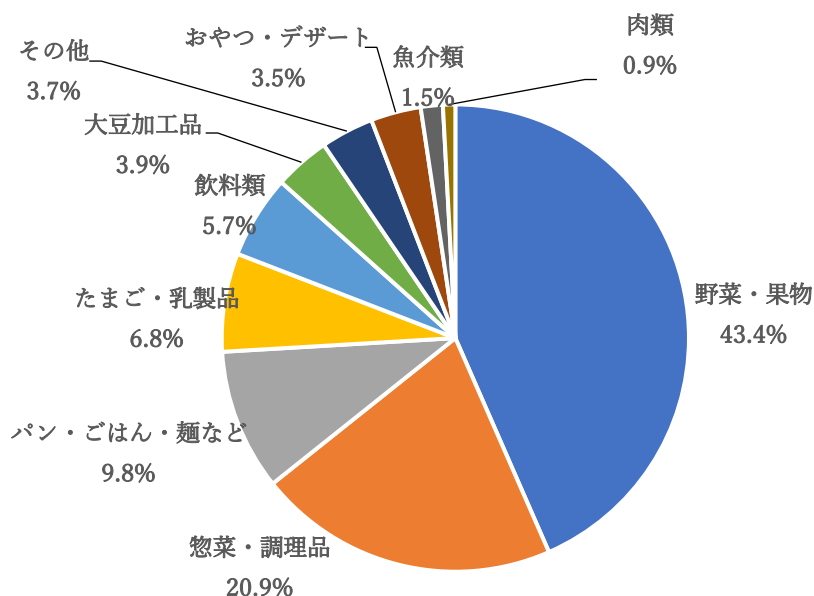
実施期間中に参加者の世帯から発生した食品ロス総重量は、29,776g であった。

食品ロス総重量を捨てたものの種類別によると、購入したものが 55.6% (16,554g)、家で調理したものが 24.0% (7,134g)、もらいものが 17.8% (5,299g)、収穫・採取したものが 2.6% (789g) であった。

捨てた理由別では、傷んでしまったが 47.6% (14,177g)、食べ残しが 23.1% (6,869g)、期限切れが 21.9% (6,529g)、おいしくなかったが 7.4% (2,201g) であった。



食品分類別では、野菜・果物が 43.4% (12,934g)、総菜・調理品が 20.9% (6,209g)、パン・ごはん・麺などが 9.8% (2,910g)、たまご・乳製品が 6.8% (2,028g)、飲料類が 5.7% (1,712g)、大豆加工品が 3.9% (1,150g)、その他（おもに調味料）が 3.7% (1,091g)、おやつ・デザートが 3.5% (1,034g)、魚介類が 1.5% (454g)、肉類が 0.9% (254g) であった。

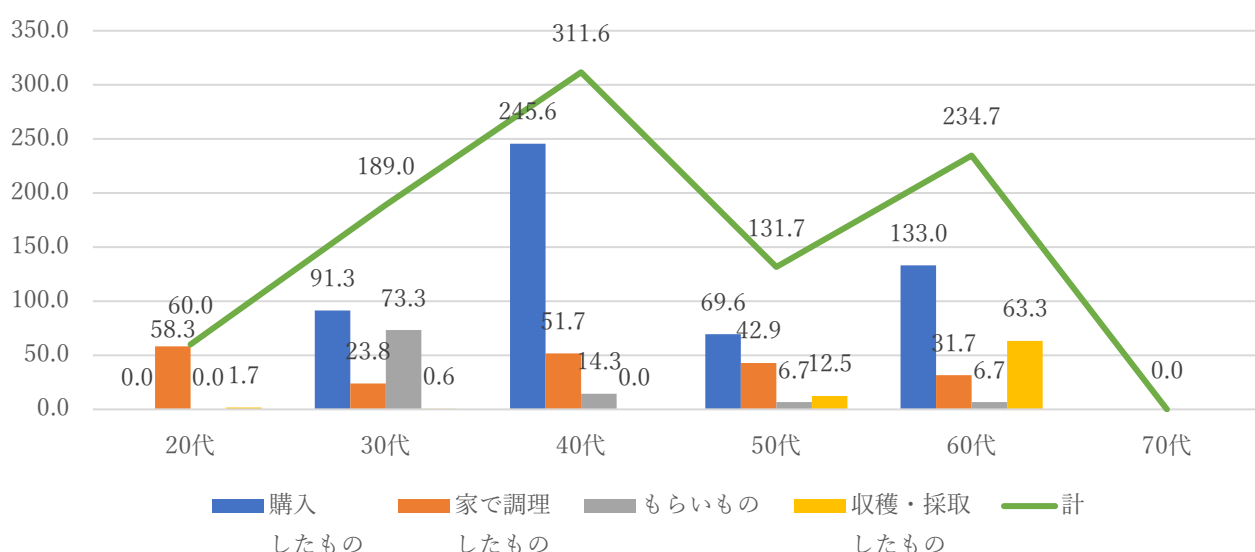


イ 参加者属性別集計

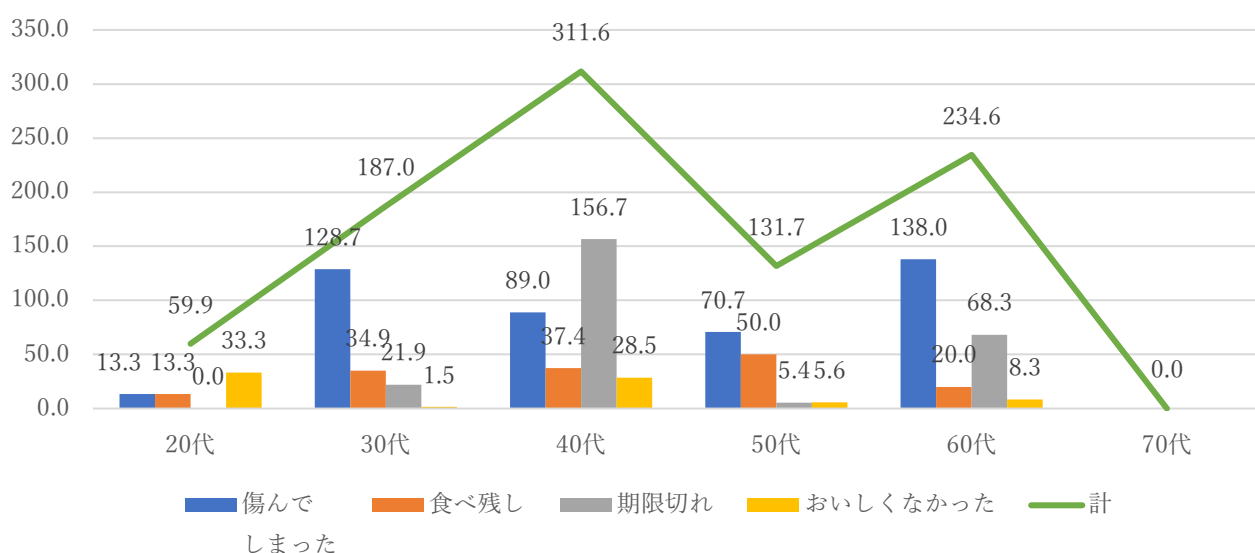
ダイアリーに取り組んだ参加者の属性別に、参加者の世帯から排出された食品ロス重量を一人あたり換算した集計結果を以下に示す。

(ア) 年代別食品ロス重量

年代別の一人あたり食品ロス重量を捨てたものの種類別にすると、購入したものは参加者が40代の世帯で最も多く245.6g、家で調理したものは参加者が20代の世帯で最も多く58.3g、もらいものは参加者が30代の世帯で最も多く73.3g、収穫・採取したものは参加者が60代の世帯で最も多く63.3gであった。

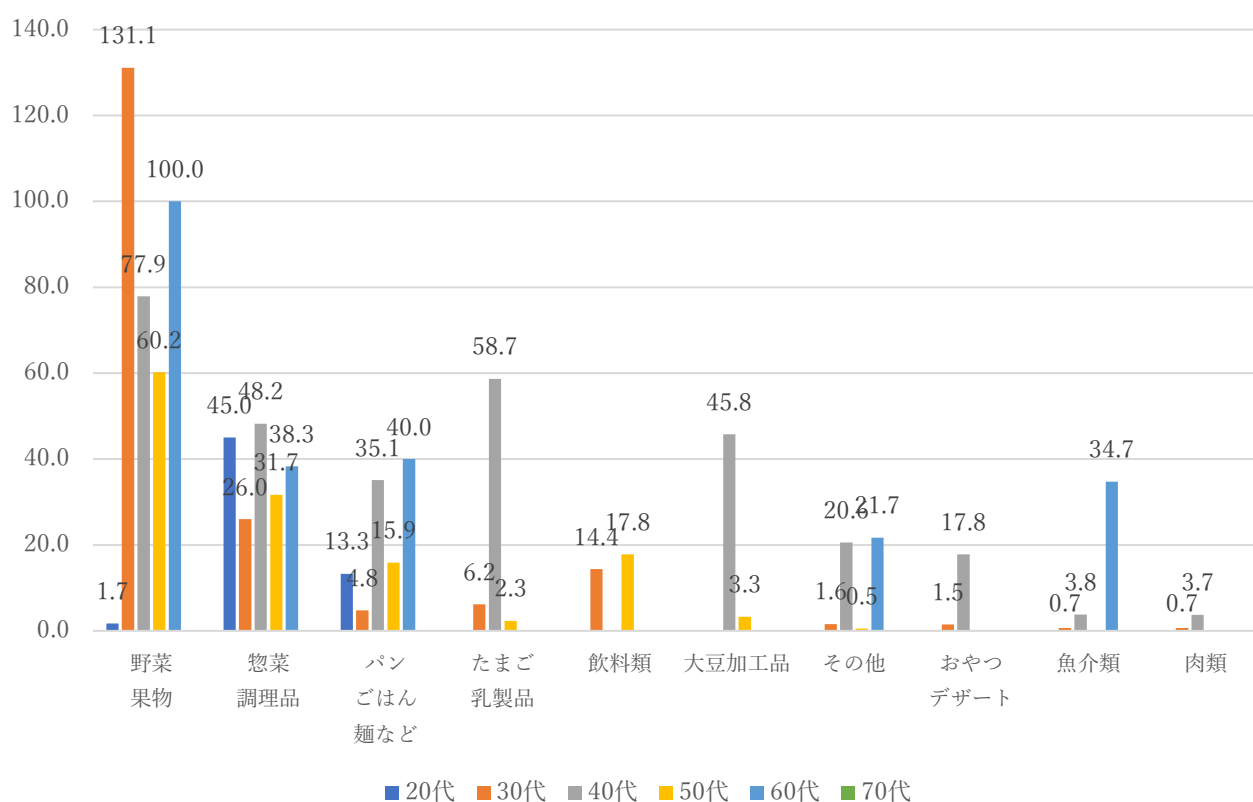


捨てた理由別では、傷んでしまったは参加者が60代の世帯で最も多く138.0g、食べ残しは参加者が50代の世帯で最も多く50.0g、期限切れは参加者が40代の世帯で最も多く156.7g、おいしくなかったは参加者が20代の世帯で最も多く33.3gであった。



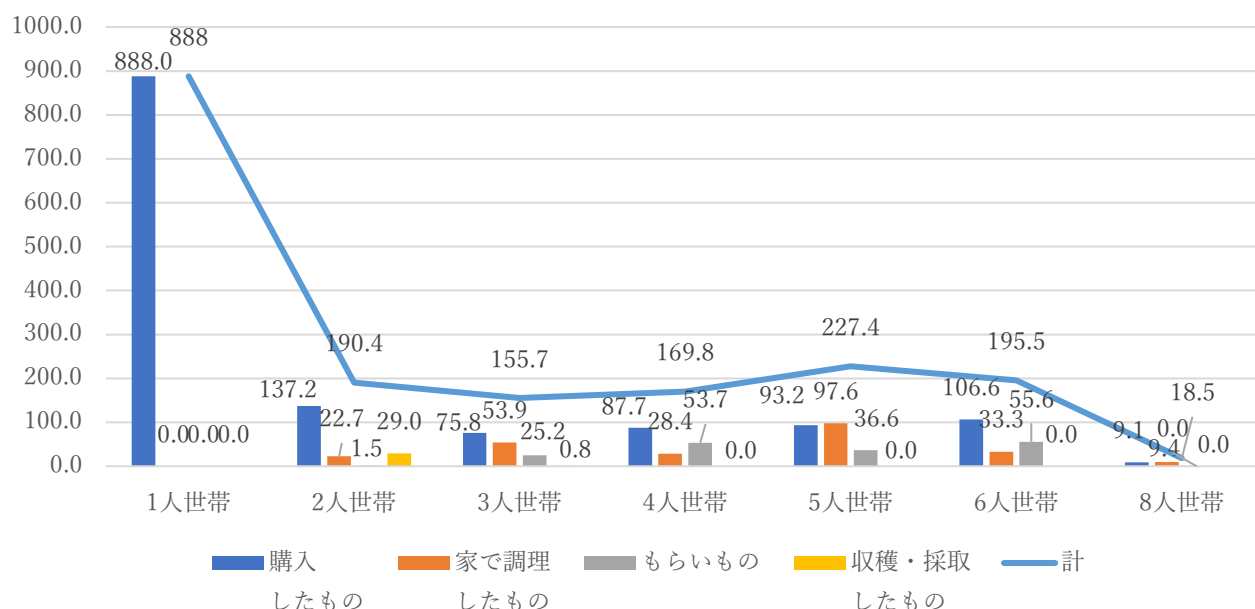
食品分類別では、野菜・果物は参加者が30代の世帯で最も多く131.1g、総菜・調理品は参加者が40代の世帯で最も多く48.2g、パン・ごはん・麺などは参加者が60代の世帯で最も多く40.0g、たまご・乳製品は参加者が40代の世帯で最も多く58.7g、飲料類は参加者が50代の世帯で最も多く17.8g、大豆加工品は参加者が40代の世帯で最も多く45.8g、その他は60代の世帯で最も多く21.7g、おやつ・デザートは参加者が40代の世帯で最も多く17.8g、魚介類は参加者が60代の世帯で最も多く34.7g、肉類は参加者が40代の世帯で最も多く3.7gであった。

参加者が70代の世帯（1世帯）は、4週を通して発生した食品ロス総重量が0.0gであった。

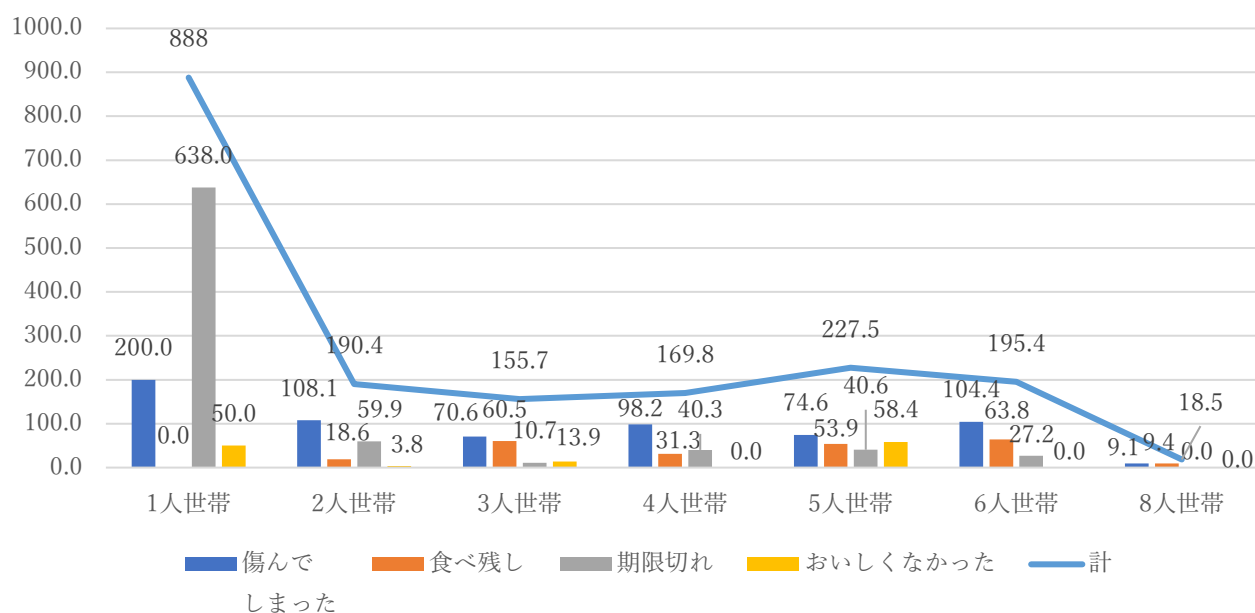


(イ) 世帯構成別

世帯人数別の一人あたり食品ロス重量を捨てたものの種類別にすると、購入したものは1人世帯で最も多く 888.0g、家で調理したものは5人世帯で最も多く 97.6g、もらいものは6人世帯で最も多く 55.6g、収穫・採取したものは2人世帯で最も多く 29.0g であった。

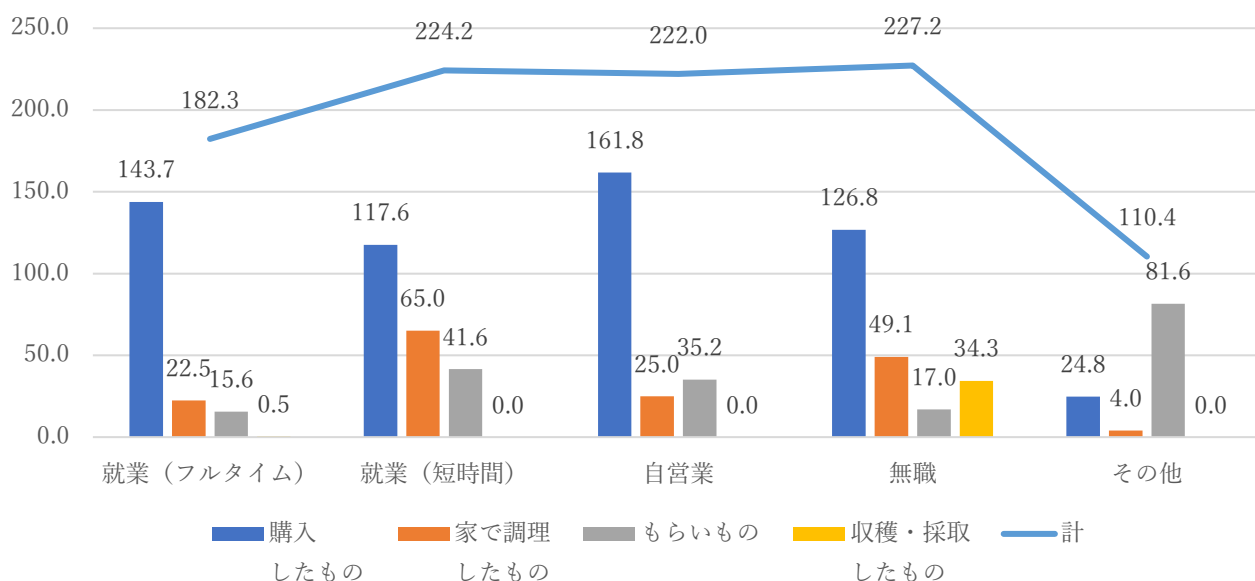


捨てた理由別では、傷んでしまったは1人世帯で最も多く 200.0g、食べ残しは6人世帯で最も多く 63.8g、期限切れは1人世帯で最も多く 638.0g、おいしくなかったは5人世帯で最も多く 58.4g であった。

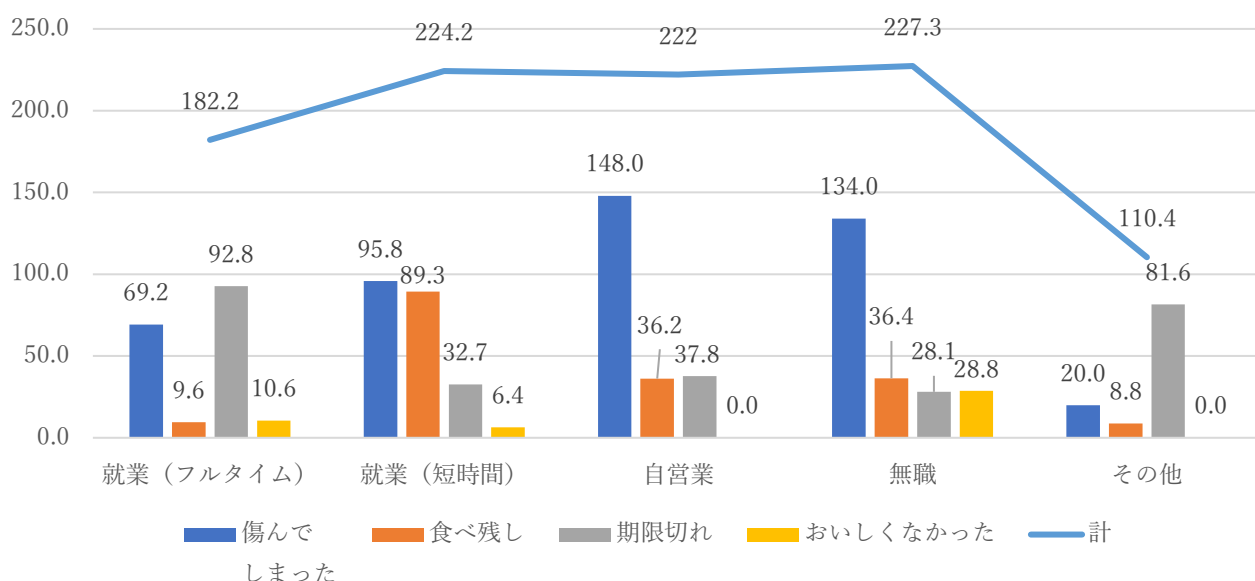


(ウ) 就労状況別

就労状況別の一人あたり食品ロス重量を捨てたものの種類別にすると、購入したものは参加者が自営業の世帯で最も多く 161.8g、家で調理したものは参加者が就業（短時間）の世帯で最も多く 65.0g、もらいものは参加者の就労状況がその他の世帯で最も多く 81.6g、収穫・採取したものは参加者が無職の世帯で最も多く 34.3g であった。

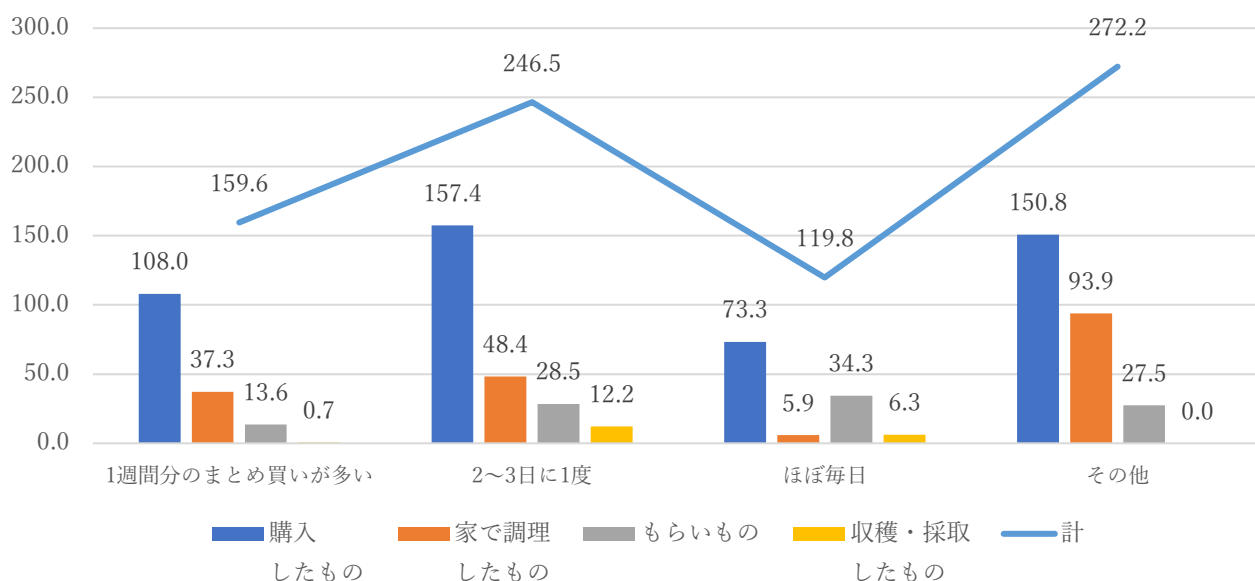


捨てた理由別では、傷んでしまったは参加者が自営業の世帯で最も多く 148.0g、食べ残しは参加者が就業（短時間）の世帯で最も多く 89.3g、期限切れは参加者が就業（フルタイム）の世帯で最も多く 92.8g、おいしくなかったは参加者が無職の世帯で最も多く 28.8g であった。

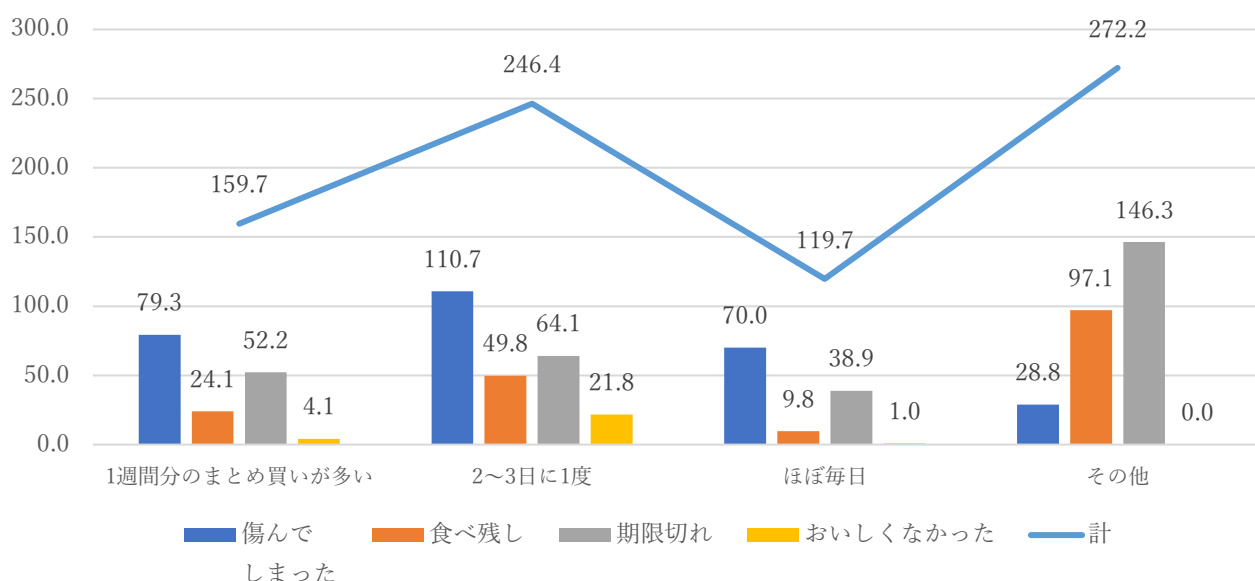


(エ) 買物頻度別

買物頻度別の一人あたり食品ロス重量を捨てたものの種類別にすると、購入したものは「2～3日に1度」の世帯で最も多く 157.4g、家で調理したものは「その他」の世帯で最も多く 93.9g、もらいものは「ほぼ毎日」の世帯で最も多く 34.3g、収穫・採取したものは「2～3日に1度」の世帯で最も多く 12.2g であった。



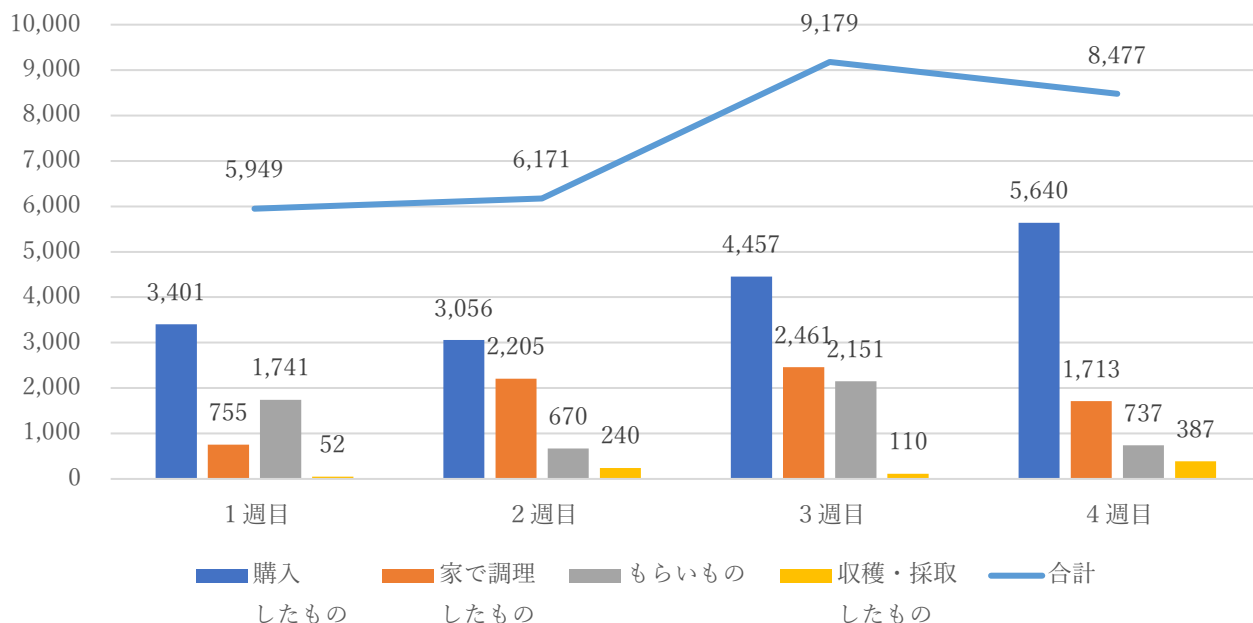
捨てた理由別では、傷んでしまったは「2～3日に1度」の世帯で最も多く 110.7g、食べ残しは「その他」の世帯で最も多く 97.1g、期限切れは「その他」の世帯で最も多く 146.3g、おいしくなかったは「2～3日に1度」の世帯で最も多く 21.8g であった。



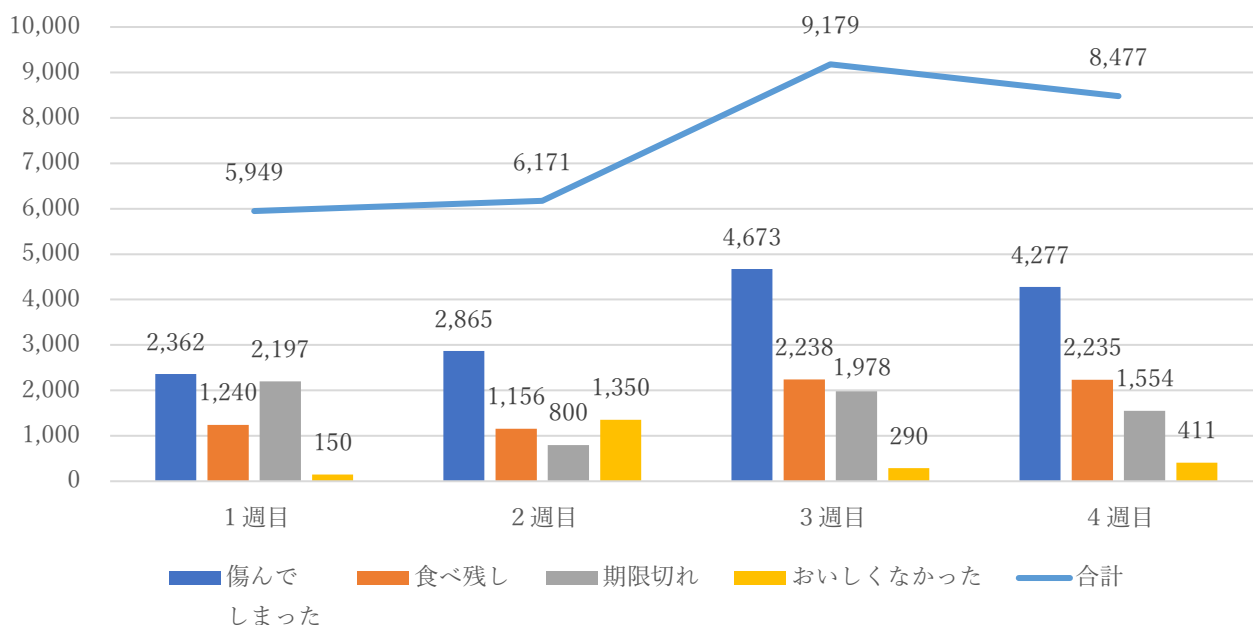
イ 週別集計

(ア) 食品ロス重量

週別食品ロス総重量を捨てたものの種類別によると、購入したものは4週目が最も多く5,640g、家で調理したものは3週目が最も多く2,461g、もらいものは3週目が最も多く2,151g、収穫・採取したものは4週目が最も多く387gであった。

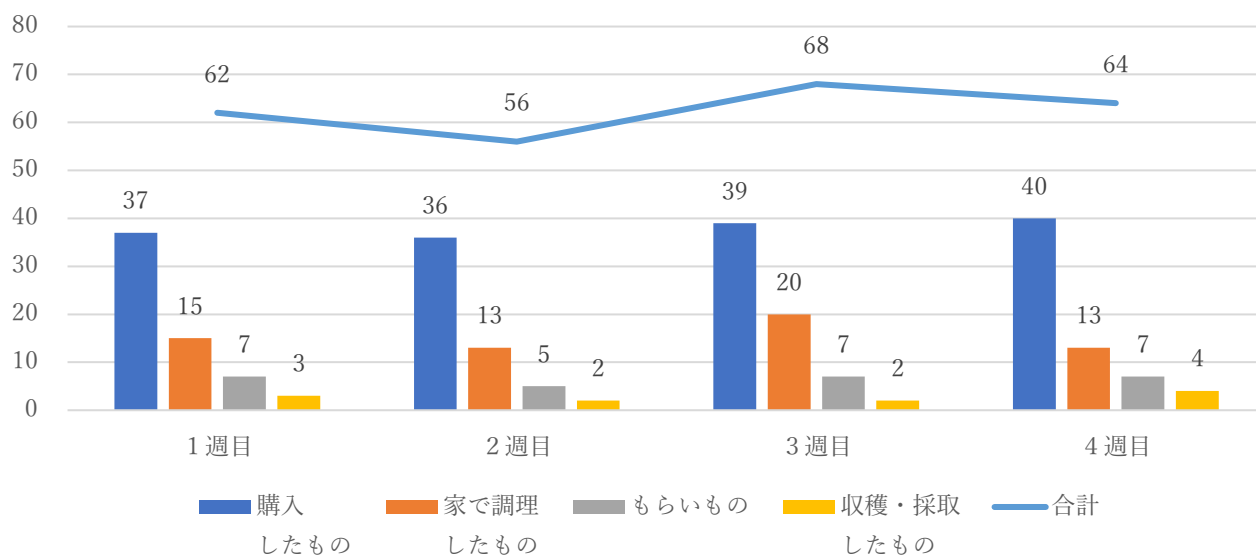


捨てた理由別では、傷んでしまったのは3週目が最も多く4,673g、食べ残しは3週目が最も多く2,238g、期限切れは1週目が最も多く2,197g、おいしくなかったのは2週目が最も多く1,350gであった。

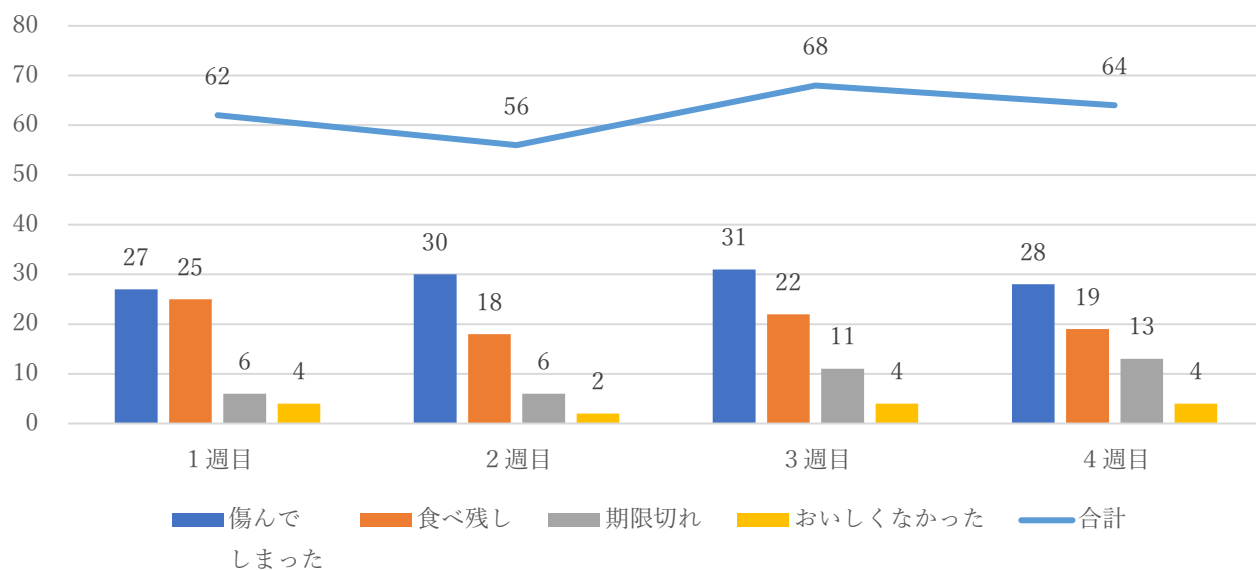


(イ) 食品ロス件数

週別食品ロス件数を捨てたものの種類別によると、購入したものは4週目が最も多く40件、家で調理したものは3週目が最も多く20件、もらいものは1、3、4週目で7件、収穫・採取したものは4週目が最も多く4件であった。



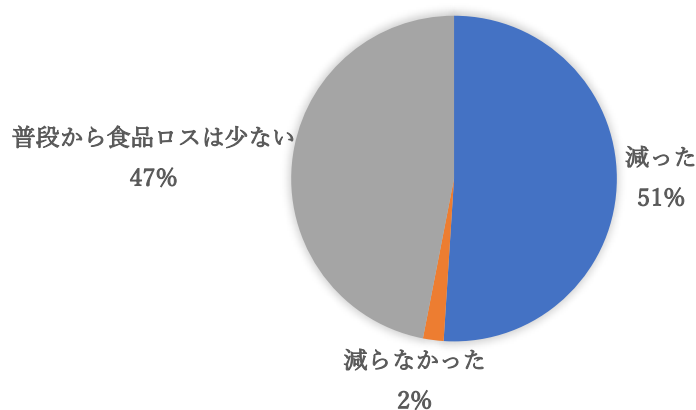
捨てた理由別では、傷んでしまったのは3週目が最も多く31件、食べ残しは1週目が最も多く25件、期限切れは4週目が最も多く13件、おいしくなかったのは1、3、4週目で4件であった。



(3) 取組後アンケート集計結果

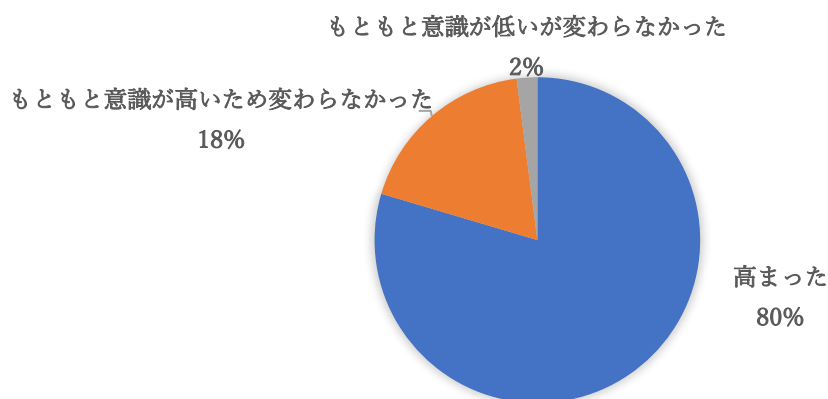
(ア) あなたの家では、取組前と取組後では、食品ロスの量は減りましたか？

減ったが 51% (25 人)、減らなかったが 2% (1 人)、普段から食品ロスは少ないが 47% (23 人) であった。



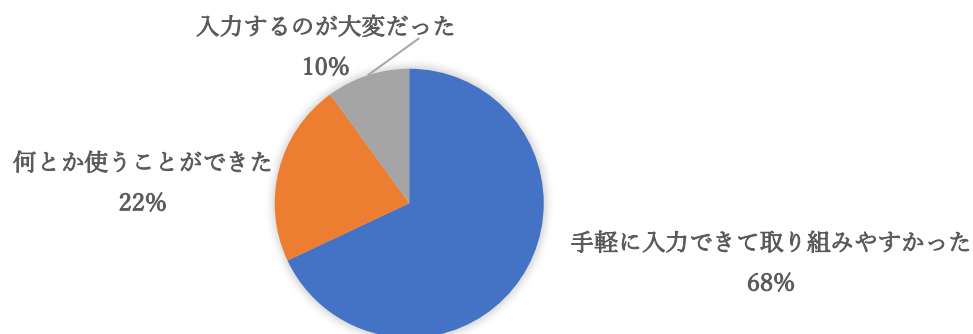
(イ) あなたは取組前と取組後では、食品ロスを減らそうという意識は高まりましたか？

高まったが 80% (39 人)、もともと意識が高いため変わらなかったが 18% (9 人)、もともと意識が低いが変わらなかったが 2% (1 人) であった。



(ウ) ウェブアプリによる食品ロス入力や、電子申請を活用したアンケートについて

手軽に入力できて取組やすかったが 68% (33 人)、何とか使うことができたが 22% (11 人)、入力するのが大変だったが 10% (5 人) であった。



(エ) 食品ロスダイアリーに取り組んだ感想や、ご自身の食品ロス削減への今後の取組等について、ご自由にご記入してください。(一部抜粋)

・普段から食品ロスは少ないのですが、ホームページなども拝見して、普段より工夫しました。今は家族と住んでいるのである程度まとめ買いしても、消費しきれるのが、自分の家計の特徴だと分かりました。買い物するときは必ず買うもののリストを持っています。また、買い物したあとは、食品を切って調味料につけ、冷凍保存しています。保存開始日が分かるように、ジップロックに日付を書いて管理しています。自分に合った方法だと思うので、これからも続けていきたいです。

・普段あまり意識しないと自分が食品ロスを出していることに気づけなかったと思う。また、特売だからと値段に左右されてつい買ってしまうものも、本当に短期間で使い切れるのか少し考えて購入するように意識できた。今後は生ゴミを減らすような工夫を自分で取り組んでいきたいと思う。

・記録しているという自覚がある事で ロスをなくそうと期限や冷蔵庫内をこまめに見る習慣が着いて良かった。

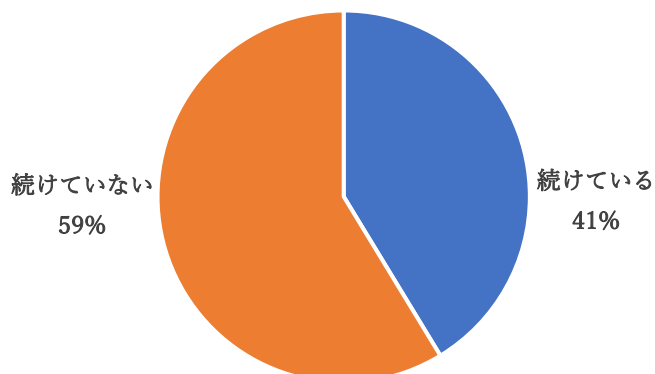
・普段より食品を無駄にしない事には意識をもって行動していましたが、実際は捨ててしまったものがありました。少しだけだからいっかという気持ちではなく、食品ロスゼロを目指してこれからも無駄にしない工夫を取り込もうと改めて感じられた機会でした。幼い頃から食品ロスの少ない家庭で育ったのですが、定期的に届くメールを拝読すると、食品ロスの量の多さに驚きました。物価高騰の中、食品ロスは本当に勿体ないと思います。また食べ物に困窮している国や各家庭の事を考えると、各家庭だけでなくスーパーや飲食店でもより一層の努力を務めて欲しいなと感じました。

・まず、思っていたより捨てているなと驚きました。可視化するって大事ですね！主に捨てている食品は両親にもらった野菜だったので、4週目に新たにもらった野菜は少しだけ残してすぐさま友人達にお裾分けしました！喜んでもらえたと、ロスも減ったしで嬉しいことだらけでした。今回の企画は、とても良いものでした。これから先の未来が少し明るくなったような気がします。これからも続けていきたいと思います。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

(4) 定着アンケート集計結果

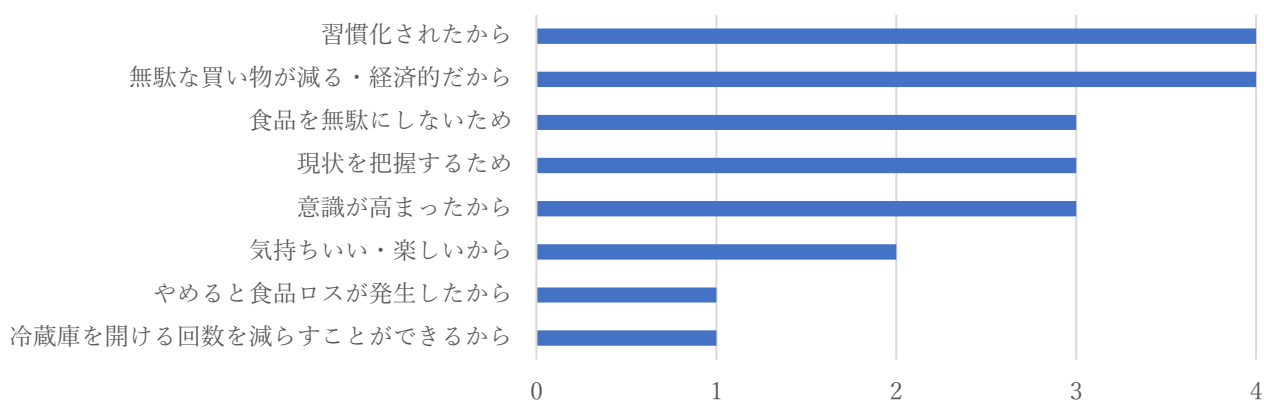
(ア) 今も食品ロスダイアリーを続けていますか。

続けているが 41% (19 人)、続けていないが 59% (27 人) であった。



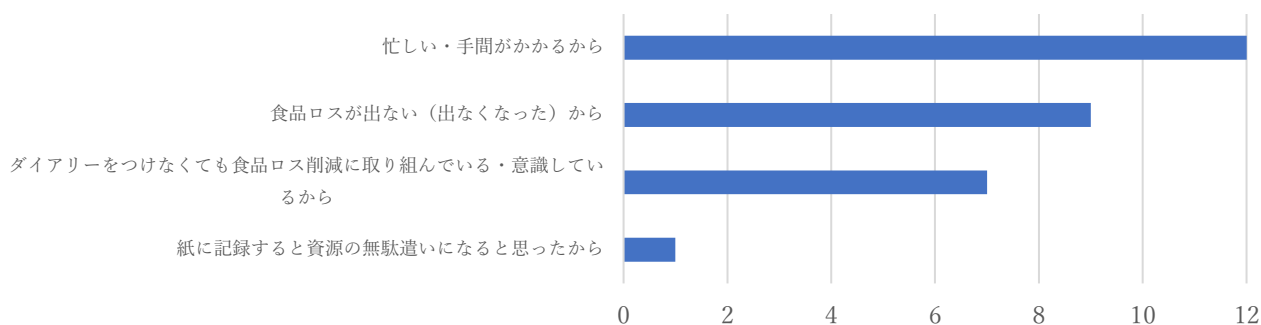
(イ) 続けている理由を教えてください。(記述回答を分類して集計)

ダイアリーを続けている理由として、「習慣化されたから」、「無駄な買い物が減り、経済的だから」という趣旨の回答が最も多くあった。その他には、「ダイアリーのテンプレートに賞味期限が近い食品を書く欄を付け加え、冷蔵庫に貼ることで冷蔵庫を開ける回数を減らすことができるから」と答えた回答者もいた。



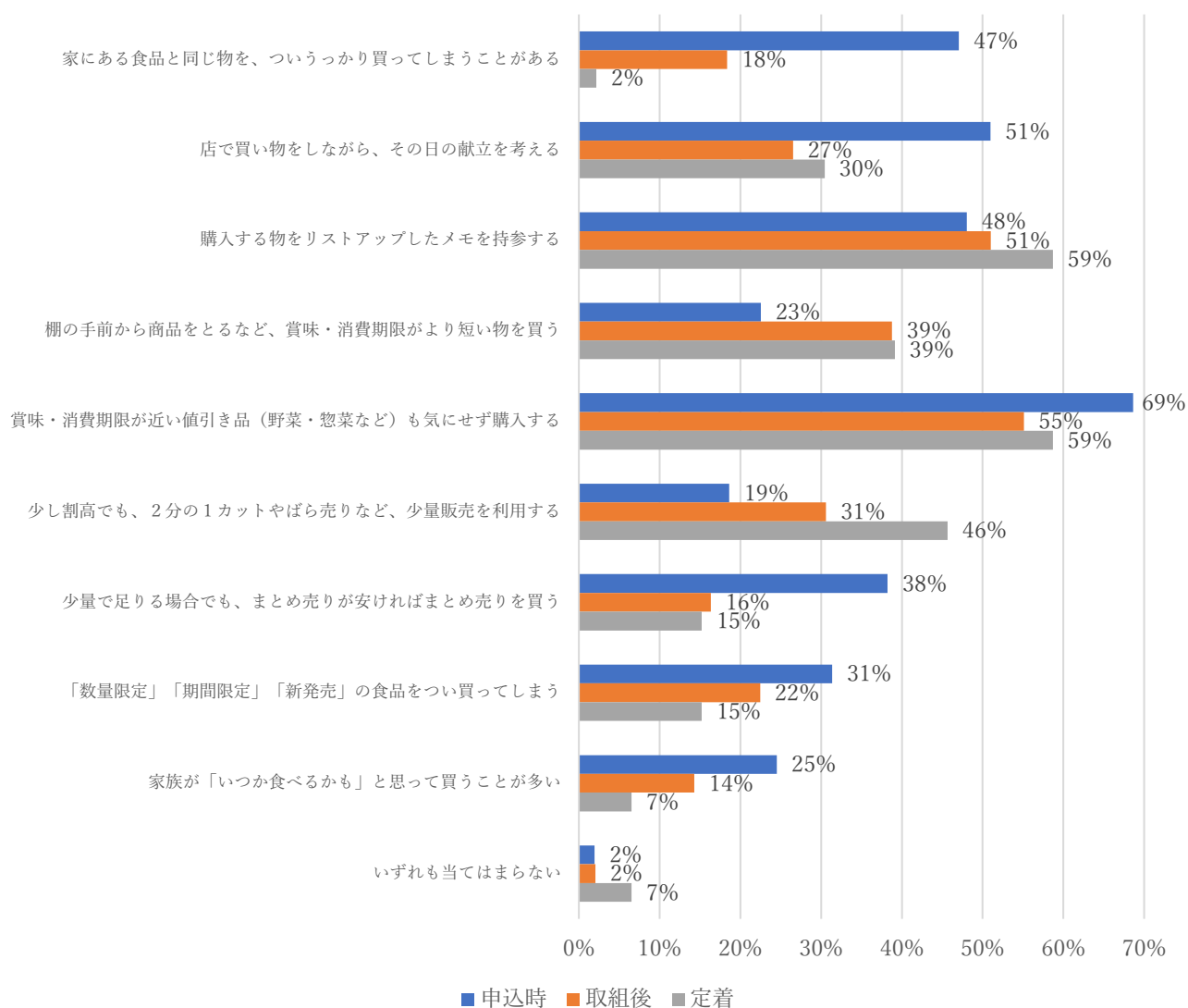
(ウ) 続けていない理由を教えてください。(記述回答を分類して集計)

ダイアリーを続けていない理由として、「忙しくて続けられない」等のダイアリーを続けるのは負担が大きいという趣旨の回答が最も多くあった。



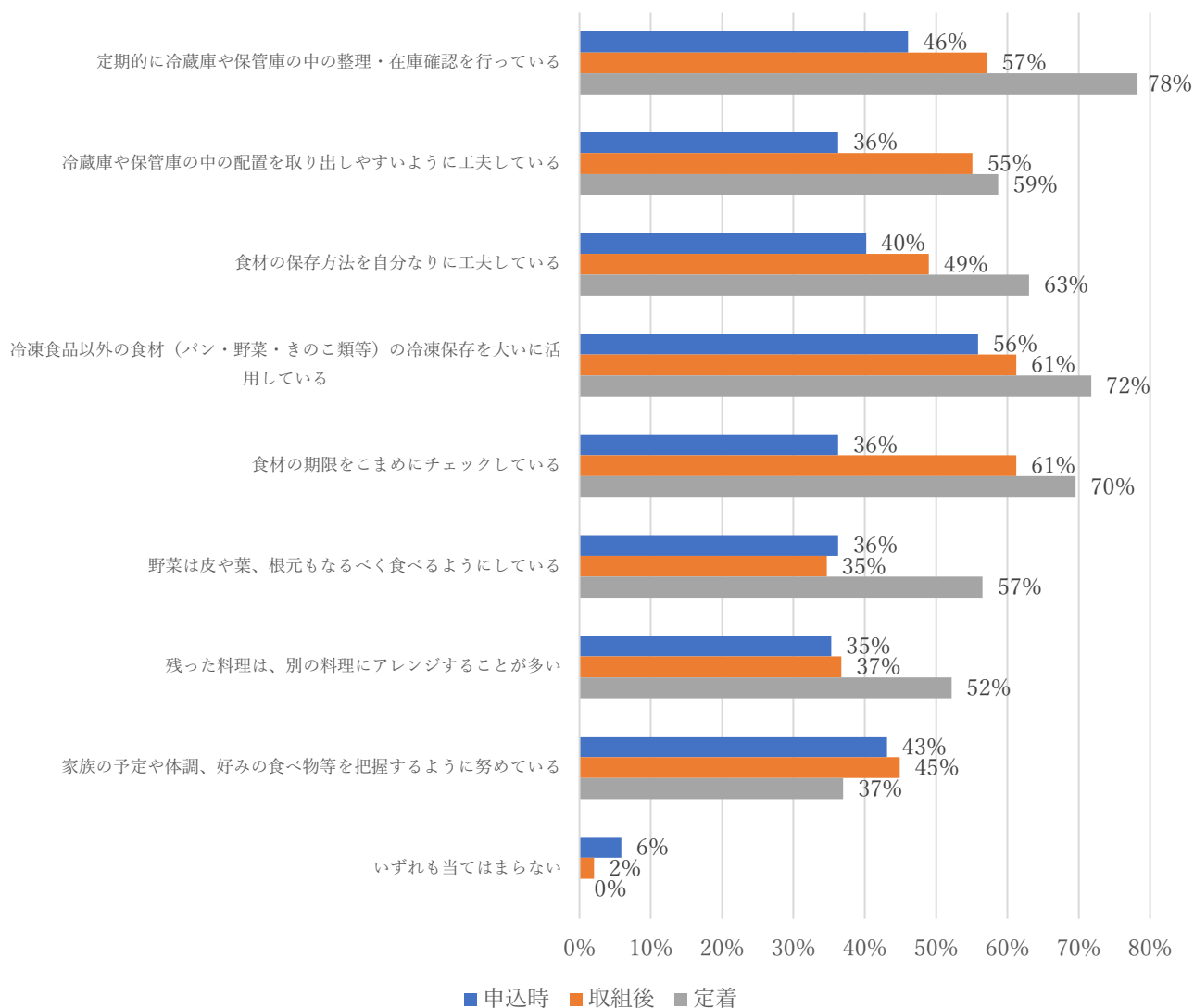
以下、(エ)、(オ) は、ダイアリー取組前（申込時アンケート）、取組直後（取組後アンケート）、取組2か月後（定着アンケート）の3度にわたり、同様の質問をした結果を示す。
 (エ) 取組2か月後【買い物時】として、当てはまることにチェックを付けてください。
 （複数回答可）

申込時アンケートと定着アンケートでの選択率の差が最も大きくなった項目は、「家にある食品と同じ物を、ついうっかり買ってしまうことがある」であり、選択した回答者が45%減少した。



(オ) 取組2か月後【家庭内】として、当てはまることにチェックを付けてください。(複数回答可)

申込時アンケートと定着アンケートでの選択率の差が最も大きくなった項目は、「食材の期限をこまめにチェックしている」であり、選択した回答者が34%増加した。



3 まとめ

令和6年度「食品ロスダイアリーキャンペーン」では、申込件数102件中49件の実施があり、そのうち46件が定着アンケートに回答したためアンケート回収率は45.1%であった。

ダイアリーは昨年度に引き続き実施期間を4週間とし、捨てたものの量の記入欄は計量する手間を軽減するため、g以外の記入を可能とした。

実施結果は、49件中7件は食品ロスがなく、食品ロス総重量は29,776gであった。捨てたものの種類別では購入したものが最も多く16,554g、捨てた理由別では傷んでしまったが最も多く14,177gであった。また、購入したものが傷んでしまい食品ロスになったものが8,513gとなり、全体の28.6%と大きく占めている。

食品分類別では野菜・果物が最も多く12,934gであった。そのうちの95%以上を占める12,390gが傷んでしまったため捨てたとしている。ダイアリーの捨てることになった理由を記入する欄では、「使おうと思っているうちに傷んでしまった。」という答えが多く見られ、食品の買いすぎ、冷蔵庫の整理整頓が不十分であることや保管方法が適切でなかったことが考えられる。

ダイアリー取組前後に行ったアンケートで、食品ロスを減らそうという意識が「高まった」と答えた参加者が全体の80.0%で、そのうちの65.0%が取組前と後では、食品ロスの量が「減った」と答えた。ダイアリーに取り組むことは食品ロスを減らそうという意識を高め、実際に食品ロス削減に一定の効果があると言える。

アンケートの2か月後に、食品ロスダイアリーが定着して現在も続けているかを聞く定着アンケートでは、「続けている」と答えた41.3%に定着していることが分かった。続けている理由として、習慣化されているから、現状把握のため、食品を無駄にしたくないからという理由があった。また、中には、一度ダイアリーをやめたら廃棄が出たため再開した、や、独自にカスタマイズして必要な情報を足したといった意見もあった。続けていない理由を大きく分けると、食品ロスが出ないから、食品ロスを削減する意識が身に着いたから、面倒・忙しいからの3つで、面倒・忙しいからと答えた参加者は全体の23.9%にあたる。今回のような毎日データを入力するような形でのダイアリーの継続は面倒に感じる方が一定数いるため、簡単にウェブ上で入力ができるものなど、それぞれに合った食品ロス削減施策の選択肢を提供していく必要がある。

食品ロスダイアリーの実施により、購入したものを傷ませてしまうことが多く、食品分類別では野菜・果物が食品ロスになりやすいことが分かった。また、ダイアリーに取り組

むことで食品ロスを減らそうという意識を高め、またそれを行動に移すための後押しになり食品ロス削減に一定の効果があつたことが分かった。

ごみ減量化をさらに推進させるため、食品の保存や調理の工夫など日々実践できることに関する情報発信、啓発活動を引き続き実施していきたい。

【参考資料】

・食品ロスダイアリーシート

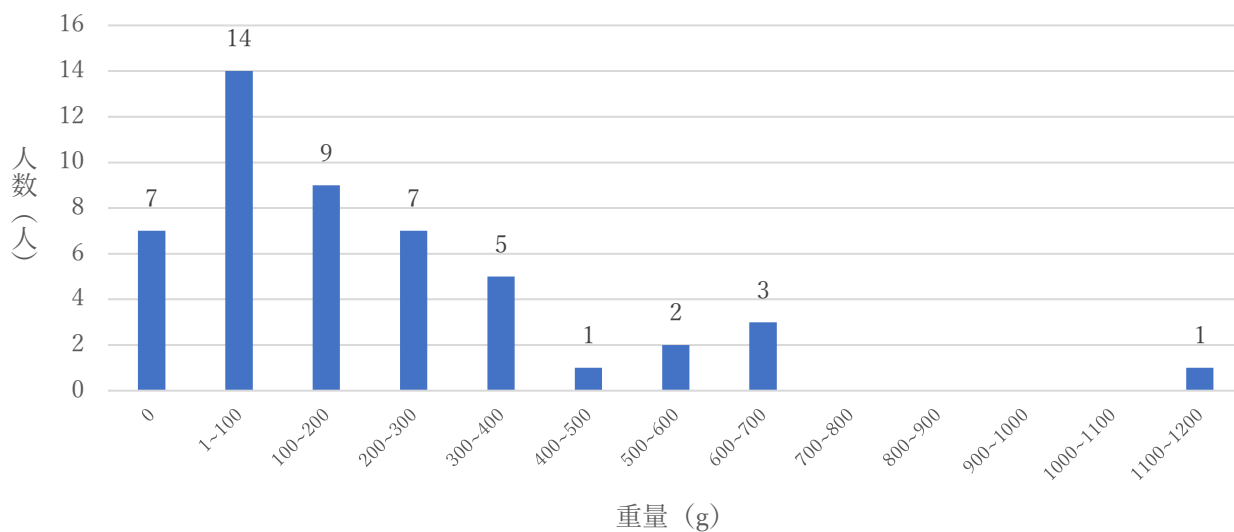
 食品ロスダイアリー ①いつ、何を、どのくらい、どんな理由で捨てたかを、《入力例》を参考にメモしていきましょう。 ②どんな食品をどんな理由で捨ててしまったかを振り返っていきましょう。 ③自分のライフスタイルに合わせて、何ができるか考えてみましょう。 ④「もったいない」を意識して、記入を続けていきましょう。												
1週間捨てるものがなかった場合は こちらへチェック⇒ ☐												
日付	曜日	捨てたもの	捨てたものの量	捨てたものの種類				捨てた理由				捨てることになった理由や、 捨てずに済む方法等を書き出してみましょう。
				家で調理したもの	購入したもの	もらいもの	収穫・採取したもの	食べ残し	傷んでしまった	期限切れ	おいしくなかった	

g 以外の記入については、厚生労働省の「令和 6 年国民健康・栄養調査食品番号表」内の重量換算を参考にした。なお、「令和 6 年国民健康・栄養調査食品番号表」に重量換算されていない品目は、課で重量換算を行った。

・調査項目

申込時アンケート					
生年月日	世帯構成	買物時の行動	家庭内の行動		
取組後アンケート					
就労状況	買物の頻度	参加のきっかけ	参加の動機	買物時の行動	家庭内の行動
あなたの家では、取組前と取組後では、食品ロスの量は減りましたか？					
あなたは取組前と取組後では、食品ロスを減らそうという意識は高まりましたか？					
ウェブアプリによる食品ロス入力や、電子申請を活用したアンケートについて					
食品ロスダイアリーに取り組んだ感想、食品ロス削減への今後の取組等について					
定着アンケート					
買物時の行動	家庭内の行動				
今も食品ロスダイアリーを続けていますか。					
(続けている参加者に対して) 続けている理由を教えてください。					
(続けない参加者に対して) 続けない理由を教えてください。					

・4週間の食品ロス総重量分布（一人あたり換算）



・参加者属性内訳

(1) 年代

20代	2
30代	13
40代	15
50代	15
60代	3
70代	1
合計	49

(2) 世帯構成

	19歳以下なし	19歳以下あり	合計
単身	2	0	2
2人	9	4	13
3人	7	6	13
4人	3	8	11
5人	0	5	5
6人	0	3	3
7人	0	0	0
8人	0	2	2
合計	21	28	49

(3) 就労状況

就業（フルタイム）	21
就業（短時間）	13
無職	11
その他	2
自営業	2
合計	49

(4) 買物頻度

2～3日に1度	26
1週間分のまとめ買いが多い	11
ほぼ毎日	10
その他	2
合計	49